

会 議 録

1 会議名

令和元年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

2 議題（全て公開）

- (1) 平成30年度の専門部会の取組報告及び令和元年度の取組方針について
- (2) 平成30年度の上越地域在宅医療推進センターの取組報告及び令和元年度の取組方針について
- (3) その他（意見交換）

3 開催日時

令和元年5月30日（木）午後7時から午後8時05分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第一会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

委員：長谷川正樹 原 省司 吉澤光弘 揚石義夫 相澤由美子
浅野広美 藤本智恵 筑山芳江 森橋恵子 早津敏彦
大平真由美 横田麻理子 石田さとみ 渡辺久枝 飯塚俊子
事務局：岡田雅美 松原久子 保坂あかね 長谷川美代 岡田尚子
原田浩成 大山仁（上越市健康福祉部長） 渡辺晶恵 南雲一弘
柳澤明美 佐藤麻由子 長澤由美 坪井裕章 岩井美晴

8 発言の内容（要旨）

開会

あいさつ 大山健康福祉部長

議題

- (1) 平成30年度の専門部会の取組報告及び令和元年度の取組方針について
・資料「平成30年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 各
部会取組のまとめ（平成30年度実績・令和元年度事業計画）」に沿って各部
会より報告

① 入退院時支援部会 早津副部会長

入退院時支援部会は、地域訪問看護師・ケアマネジャー・病院ソーシャルワーカー2名・理学療法士で担当している。今まで2年間担当していたので、そのまとめと今後の方向性について報告させていただく。

「ケアマネジャーと病院の連携ガイドライン」を多職種連携の視点を入れたガイドラインに見直し、スムーズな入退院時支援を目指してきた。方針としては、連携ガイドライン・訪問チェックリストの周知活用をすることで、これまでの2年間ガイドラインを修正・追加、連携フロー図の作成に力を入れてきた。平成30年9月に「ケアマネジャーと病院の連携ガイドライン」及び連携フロー図をがんぎネットへ掲載し運用を開始した。1ヶ月後の10月には入退院時支援のためのルールやツールについての研修会を開催し、皆様に周知・共通理解を図ることができた。センターでのアンケートの結果からも、ケアマネジャーの方は3年前と比べ病院窓口の明確化や連携体制が向上したと感じていて、結果として連携件数の増加にもつながっているようだ。全体としても退院後の在宅医療提供体制が進展したと感じている方が多いようだった。

令和元年度の計画として、方針は今まで通りである。取組予定として「ケアマネジャーと病院の連携ガイドライン」及び「連携フロー図」の運用について実態把握と見直しをすることで、6月にアンケートを取る予定。また、ケアマネジャー・地域包括支援センター・病院連携室・担当者を対象とした入退院時の連携に関する研修会を開催予定。他に、精神科病院と地域との連携についての状況把握、研修会または意見交換会を開催する予定。訪問看護導入チェックリストを活用した連携についても検討していく予定。

② 他職種連携推進・研修部会 上越市すこやかなくらし包括支援センター
坪井主任

他職種連携推進・研修部会は、医師・看護師（地域連携センターの看護師・訪問看護師）・薬剤師・地域包括支援センターの管理者で担当している。

平成30年度の目標及び方針は資料参照。平成29年度に研修受講者へのアンケートを実施し研修受講後の連携状況の確認をしたところ、6割弱の方が職場に報告していた。残りの約4割の方は受講で止まっていたので、30年度の研修会では参加者に受講者の役割・他職種連携の大切さを伝えることで、意識を高く持って研修に参加していただくことができた。取組としては、平成30年度は年3回の研修会を開催した。受講者同士の顔が繋がって、更にコミュニケーションがとりやすくなるようにということを目的とした。グループワークでは構成人数を6名と少人数でグループを固定し3回の研修を受けていただいた。研修前は2割の方が地域連携連絡票を知らなかったが、研修後は活用方法の理解

が進んだ。

令和元年度の方針は、他職種が連携し、在宅生活を継続していくための連携ツールとして地域連携連絡票を活用する、と考えて計画した。取組予定は大きく2点。

1点目は研修受講者が活躍できる場や機会について検討すること。2点目は他の部会と連携した活動を検討すること。具体的には他の部会が企画する研修会で、研修受講者が他職種連携について伝えられないかと考えている。また、他職種連携の推進を目指して「MCネット」を活用できないかと考えている。

③ ICT 連携部会 横田部会長

ICT連携部会担当は資料参照。平成30年度の目標は、上越・妙高地域の連携標準ツールとなることで、地域包括支援センター加入率100%・居宅介護支援事業所加入率80%を目標とした。方針としてはMCネットを知ってもらうこと(MCネット塾・MCネット活用塾の開催、MCネットかわらばんの発行)、使い始めやすいツールにすること(本人家族向けリーフレットの作成)、使ってもらえるツールにすること(活用塾・訪問看護での活用)。MCネット塾は年10回開催、83名参加。MCネットかわらばん発行は年4回。本人・家族向けリーフレットの作成・運用開始は7月～、MCネット活用塾には28名参加。ケアマネジャーや訪問看護事業所への啓発も行った。成果として、地域包括支援センター加入率が38.1%→91.7%、居宅介護支援事業所加入率が46.5%→64.0%、訪問看護事業所加入率が85.7%→92.9%、MCネット加入端末数が369端末→599端末といずれも増加している。評価アンケートの結果からICT連携部会の取組は概ね適切で効果はあったが、MCネットの有効活用にはまだ十分にはつながっていないということが読み取れた。

令和元年度の方針は、MCネット加入率の向上(居宅介護支援事業所・医療機関を中心に)、MCネット活用の質の向上、運用上の問題解決(セキュリティ・削除などのルール・異動に伴う変更等)である。取組の予定としては、MCネット活用塾の開催、具体的には直江津や高田等地域ごとに年5回行う。又、医療機関との懇談会を年2回、研究会を年1回合わせて3回行う予定である。他の部会との連携としては、地域連携連絡票をMCネット上で作成することを検討している。また、活用状況の定量的な評価指標の検討をしていくこと、セキュリティ対策(個人情報管理)、MCネット利用時のルールの徹底をしていくことである。

④ 普及啓発部会 森橋部会長

普及啓発部会の平成30年度の目標としては、医療・介護が必要になっても、在宅で支援を受けながら生活することや、在宅生活の良さについて知る機会とし、在宅支援に関する普及啓発を目指してきた。実際の取組状況であるが、平成29年度に福祉介護健康フェア in 上越というイベントで市民に啓発した際のスライドを作成し、スライドを利用した普及啓発講座を年2回開催した(10/30「すこやかに老いるための市民講座」・10/31「在宅介護を応援するカフェ」)。講座参加者用のアンケートも作成し実施した。これらの成果としては、部会で作成したスライドを市民向け講座で活用できたこと、講座参加者の9割が「在宅医療や介護が必要になった時に備えて、家族や周りの人と話し合いたい」と回答したことである。講座参加者は、今後もし医療や介護が必要になったらどうするかを自分の事としてイメージすることができたようである。

令和元年度の方針としては、医療・介護が必要になっても、在宅で支援を受けながら生活することや、在宅生活の良さについて知る機会とし、在宅支援に関する普及啓発を行っていきたいと思っている。取組の予定としては、作成した普及啓発用スライドの活用ということで、①上越・妙高各市の市民向け講座で活用する②職能団体内及び職能団体が行う市民向け啓発講座で活用する、の2点を考えている。普及啓発用のスライドを“がんぎネット”にアップし皆さんから積極的に自由に活用していただいて、アイデアを加えながら活用を促進していきたいと考えている。また、講座後のアンケートに基づき、今後の啓発活動の方向性について検討していきたいと考えている。

【質疑応答】

揚石委員：普及啓発部会に教えていただきたい。普及啓発用スライドについて①、②と予定されているが、具体的には何人位にどういうところで活用をイメージしているか教えていただきたい。

森橋委員：上越市の地域包括支援センターが中心となって28区のエリアでスライドを活用してもらおうと考えている。会場にどの位の参加者があるか、地域によって様々であり、具体的な人数ははっきり申し上げられないが、昨年度も上越市では市民向け講座をいろいろな地域でやってきたので、また更にパワーアップしながら、このスライドを活用して市民啓発をして取り組んでもらえるよう考えているところ。妙高市では、直営の地域包括支援センターを中心に展開する方向性で考えている。

揚石委員：これらは地域包括支援センターにこういう趣旨で作ってあるので、こういう内容でやってくださいというのは、普及啓発部会の皆さん

もしっかり一緒に参加される予定でいるということによいか。

森橋委員：今のところはそこまで具体的に普及啓発部会で話し合われていない。これからである。今のところの案では事務局の方もいるので、担当者にこういう風に活用するということはどうでしょうかというものを説明なり、部会で情報提供できたらいいかなということは昨年度の話題の中で出ていたと思う。

揚石委員：何度も使っているうちにこのスライドも慣れていくのだろうと思うが、やはり実際に生の雰囲気などは大事だと思う。皆さんの方で部会の担当者や事務局は必ず講座に参加して、包括が主体でやるのだけれど、どんな具合だったかというのを自分たちで把握して新たないいスライドを作っていくのがいいのだろうと思う。というのは、まだ完成したものではないので、これから作り上げていくものがあると思う。

森橋委員：貴重な意見をいただいた。

早津委員：質問というかお願い。事務局とは部会の中で打ち合わせさせていただいているが、各部会で重なっている部分があって、同じように乗り合ったりしている。研修対象者が重複していて、例えば地域包括支援センターにお願いするという部分が多々あって、部会で重複する部分と対象者が重複する部分があって、その辺を事務局で調整していただいで進めるのが良いと思う。

柳澤副所長：貴重な意見をいただいた。包括の皆さんも日々忙しい中、このように研修を計画している。各部会で必要として計画している研修だと思うので、中身について必要なものを精査をかけながら、重ならないように調整させていただく。

議長：他にご質問・ご意見はどうか。

揚石委員：今年の計画のキーワードは地域包括支援センターだと思う。この2年間に上越市全体でこういうことをやってきたけれども、大体のやる方向も分かってきて、具体的に例えば多職種連携ではこの研修、ICTも、入退院、普及啓発も既にやっているの、全体のところから今度はもう少し地域に下ろして地域包括支援センター単位で話を持っていこうと、そういう方向性があるために皆、地域包括支援センターと仲良くやらなくてはという話になっている。自然な流れとしてそうなっていると思うので、それぞれ包括で地域特性があると思う。今おっしゃったとおり、ほとんど高田、直江津が中心になる感じがあるが、あまり偏ったところに集中しないように、調整を早目にかけて、市全体で地域に偏りのないよう实施方式で計画していただき

たいなと思う。

議長：部会の中でこれから細かく計画を立てていくというところもあるということだが、事務局と連絡を取りながら、必要であれば事務局を通して包括と密な活動を行っていくということをお願いする。

他の質問がないため、議題（１）について承認の委員は挙手をお願いする。
～全員挙手にて承認～

（２）平成30年度の上越地域在宅医療推進センターの取組報告及び令和元年度の取組方針について

- ・上越地域在宅医療推進センター相澤コーディネーターより資料に沿って報告

上越地域在宅医療推進センター 相澤コーディネーター

それでは、資料に沿って平成30年度上越地域在宅医療推進センター事業報告からさせていただく。（ア）～（オ）までの5つの事業内容がある。

（ア）医療提供体制のコーディネート事業は、①～⑤までの項目ですすめてきた。①としては医療と介護の連携に関する調査を行い、平成31年3月に関係機関等には調査結果を報告済。地域と病院の連携体制はできているのでその次の段階（地域内・病院内の連携強化）に進むべきという課題が見えた。②MCネットの普及推進としては加入は進んでいるが実際には活用していないという事業所も多いのが現状。今後は活用促進をすすめていく。③専門職団体の活動支援としては地域包括支援センターとの連携を作るということで取り組んでいた。包括再編後、課題として地域差がとても大きいということが分かった。今後も包括との連携について取り組んでいきたい。④ホームページグループウェア機能の普及促進としてはがんぎネットの登録推進、ケアマネルームの整備をして登録を開始した。他の職種についてはまだ整備が不十分なので今後頑張っていかなければならないと思う。⑤相談対応としてはセンターの役割として専門職を担うというのが重要だと思っている。今年度130件の問い合わせがあり病院・ケアマネからの利用が多かった。内容としては訪問看護・栄養関連が23件と多かった。センターの役割を周知して相談対応を活用していただきたいと思う。

（イ）運営会議等開催は、年12回平日にセンター内で実施した他、臨時の会議も計7回行った。妙高市・上越市・地域振興局の参加で情報共有したり協力することができたと思う。

（ウ）在宅医療の普及啓発活動としては、とにかく情報を発信して在宅医療の普及に努めていきたい。特に「がんぎネット」を活用していただけるよう周知方法

も検討していきたい。

(エ) 人材育成としては、3月に頸北・東頸地域の多種目連携研修会を開催。地域により課題が異なる為、その地域での課題を見つけながら地域別の内容で研修を開催していきたい。

(オ) その他として、センター内にある栄養ケアステーションの運営支援をさせていただいている。

令和元年度の上越地域在宅医療推進センター事業計画については資料参照。平成30年度の実施内容を分析して課題を具体的にあげている。

(ア) ①医療・介護資源の把握については、平成30年度に行った実態調査の結果について十分に周知していく。②MCネットの普及推進については、今まで加入していただくことに目標がありそれが情報共有という形で伝わっているか実数を把握できていないので今年度は把握して報告できるようにしたい。③専門職団体の活動支援については、包括を中心にして地域別に研修会を開催すること、部会企画研修会の支援を継続して行っていく。④ホームページグループウェア機能の普及促進については、周知を進めていきたい。⑤相談対応については、今年度コーディネーターを増員して2名体制とした。今までより迅速な対応が出来るのではないかと思う。

(イ) 運営会議等の開催については、①今まで通り月1回定期開催を継続する。メンバーに新たに栄養士会が加わる。

(ウ) ホームページでの情報提供については、これからもHPを活用していただければと思う。

(エ) 人材育成については、今年度は板倉と中郷包括、清里と三和包括の2ヶ所で研修会の計画をしている。毎年継続していく旨を伝えていきたいと思う。

(オ) 栄養ケアステーションの運営支援については、ケアステーションの周知支援をしていきたい。

【質疑応答】

・質問なし

終了

9 問い合わせ先

健康福祉部 すこやかなくらし包括支援センター（福祉交流プラザ 2階）

TEL：025-526-5623

E-mail：sukoyaka@city.joetu.lg.jp